

# 埼玉経済

## 空調からコロナ対策

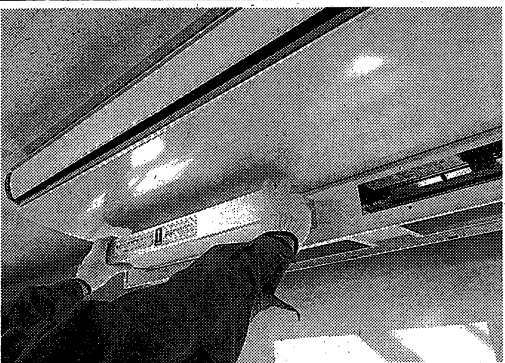
### 川口の企業開発フィルター導入

### 市、50児童クラブに

川口市は市内の放課後児童クラブで、空調面から新型コロナウイルス感染症予防対策を強化する。市内企業が開発した集じん力が高く抗菌対応も施した空調用フィルターを導入。16歳未満はコロナワクチンの接種対象外で、室内の密閉空間で空気を介して感染する「エアロゾル感染」の危険性の指摘も増え始めており、取り付けを決めた。市内企業の技術を取り入れ、感染予防対策の強化を図る。(小林哲伸)

取り付けるのはユニパック(川口市)が開発したフィルター。コロナウイルスは粉じんが付着し空間を漂っている

とされ、一般的なフィルターでは微細な粉じんなどは捕集できないといわれる。同社のフィルターは広大な表面積な



川口市はユニパックの粉じん捕集力が高く、新型コロナウイルスを不活性化させる成分が含有の空調用フィルターを、放課後児童クラブの空調に導入(同社提供)

どにより、エアコン稼働で空気1回の通過で約10分の粉じんを最大で99%、約5分は95%捕集が可能だ。

フィルターに飛沫(ひまつ)中のウイルスを不活性化する抗菌成分が含まれる。精密化学メーカーの富士フィルムから銀イオンなどが主成分でインフルエンザウイルスや大腸菌などの増殖を抑える「Hydro Ag+ (ハイドロエージープラス)」がフィルターに含有。洗浄可能で、廃棄を遅らせられるので二酸化炭素の削減もできる。

市は全国の公的な教育機関に先駆け、50の放課後児童クラブに導入することを昨年度中に決定。すでに41の児童クラブで3月末までに施工済みで、残りの新しい空調機に入れ替えた後に取り付ける。

世界的な空調関連の研究団体「ASHRAE(米暖房冷凍空調学会)」は昨年、感染経路について、新型コロナウイルスが付いた塵埃(じんあい)を介しての感染の危険性などを発表。国内では熱中症対策へ小中学校の教室などへのエアコン導入は進んでいるが、エアロゾル飛沫対策まで対応し

た。

切れていないケースが大半だ。

児童保育など狭く限られた空間での共同生活の環境では、集団感染を引き起す危険性が指摘される。それ起因し、家庭内で菌が広がる可能性もある。空調面を含めた感染症対応の多様化が必須な状況のため、市が導入を決めた。

市教育委員会は「市内企業の技術を活用して感染対策に努め、子どもの健康を守っていききたい」とし、ユニパックの松江昭彦社長は「少しでも安心して子どもが預けられる教育環境の創出へ、技術の向上に努めたい」と述べた。

企業、団体、商店街などの話  
TEL048・795・91  
keizai@saitama-ni